

Re*al*AL

2014.10 Vol.23

NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS



人生のシーンについて

浅井慎平

小学生の頃、観音さまの境内に近い所に住んでいた。映画館や芝居小屋、小演劇やストリップ・ショーを観せる劇場などを合わせると十数軒が街の中にあった。住宅地や田園、漁村で生活している人たちから見れば、そこは非日常の場所なのだ。ぼくやぼくの周りの子供たちにとっては、それが日常だった。大人たちにとっては生活の場だった。

いつものように学校が終わると
「名画座の裏で待つとるぞ」

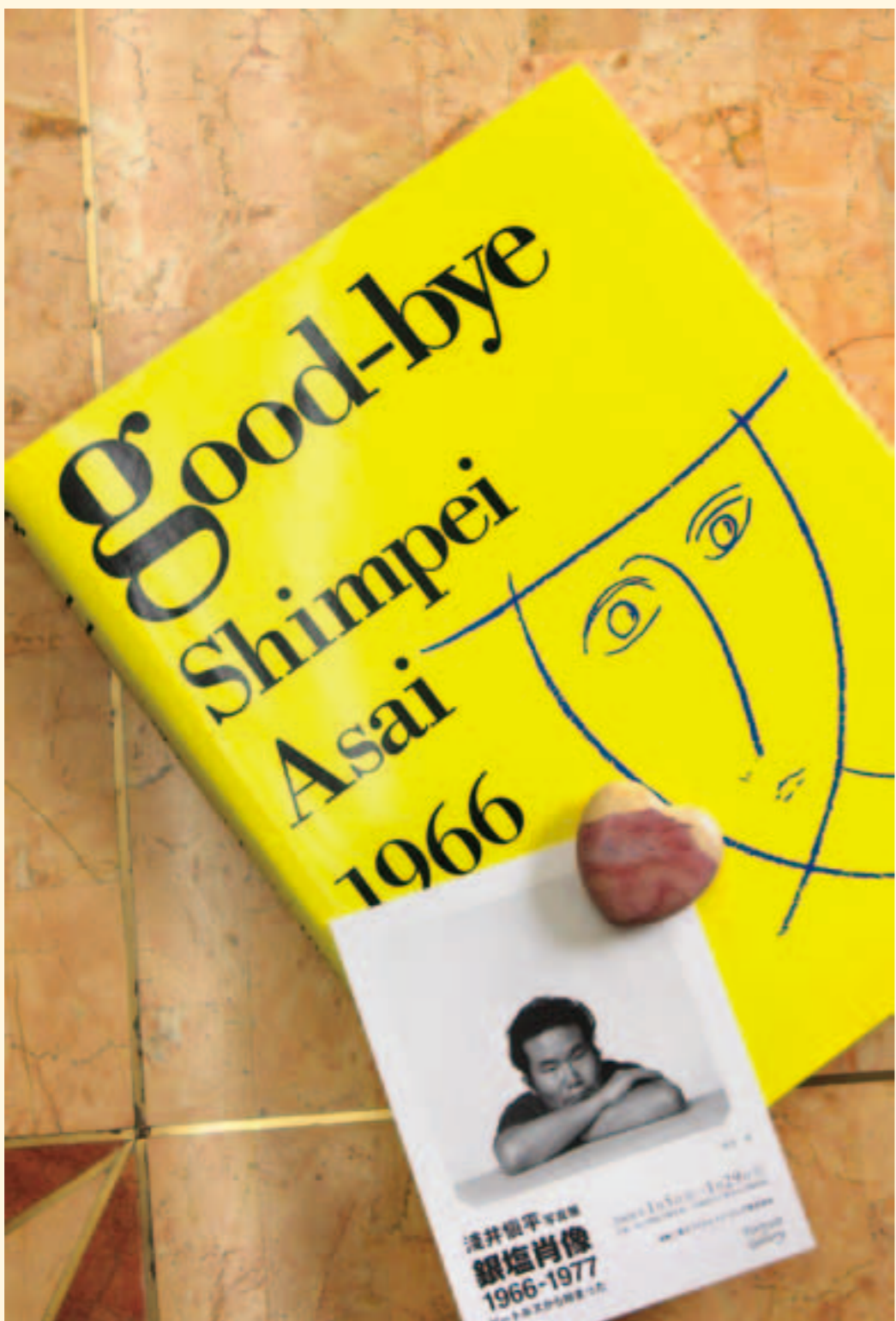
クラスの西浦君が言った。西浦君は映画館に入る秘密の裏口を知っていて、そこからぼくたちは潜り込んで暗闇に佇むのだ。けれども、それはいつものことなので、すぐに飽きてしまう。暗い闇から、まだ明るい街や広場に出て遊び、また劇場に戻る。それが遊びの方法になってい

た。だから、その頃のぼくには映画のストーリーがほとんど解らなかった。映画を観ることが習慣になっていったのだ。

中学生になってからは、映画館の裏から入ることも出来なくなり、入場料を支払って座席に沈むようになった。

中学ではバスケットボールと石や化石を蒐集することに熱中する鉱物少年だった。だから、将来は地球物理学者になると作文に書いたりした。ところが、映画館に潜むことが続くうちに、映画の仕事がしたくなってきた。そして地球物理学者ではなく映画の監督になりたいと決めた。映画にはさまざまな人生があった。哀しい物語さえも心が揺れ動いた。

大学に入学すると、すぐ映画研究会に属した。そこへ、ある運命が訪れる。



イラストレーション／写真：浅井慎平



狐の行列

山川常男（会員）

毎年12月31日の大晦日の深夜、ここ東京都北区・王子で「狐の行列」が催されます。昨年が第22回でした。

行列の参加者は、和服を着て狐のお面をかぶり、装束稲荷神社から王子稲荷神社までの約700メートルを道中行列します。まさに神秘の世界で、歌川廣重の浮世絵「名所江戸百景『王子装束系の木大晦日の狐火』」の再現を思わせる、大変にドラマチックな行列です。

掲載作品は、シャッター速度を1秒に設定し、ストロボを後幕シンクロにして撮影しました。

毎年、たくさんの方々との出会いに楽しさを感じながら、早くも十数年が経過しました。

「狐の行列」実行委員の皆様にお世話になりながら、撮影を続けさせていただいています。



あさい・しんぺい

● 写真家。1937年、陶芸の街・愛知県瀬戸市に生まれる。早稲田大学政治経済学部在学中に映画作家を志してシナリオを書き、撮影所に通っていた。学園祭のパンフレットのカバーのために写真を撮ったことで、写真の面白さに気づく。ガム島の日常風景を写した『ストリート・フォトグラフ』『ビートルズ・東京』の写真集で独自の視点が注目され、デビューを果たした。その後、チャック・ベリーの撮影で、東京アートディレクターズクラブ最高賞などを受賞。

写真表現の他に文芸、音楽、映画、工芸など、さまざまな分野でも活躍している。レコード『サーフ・ブレイク・フロム・ジャマイカ』では、ゴールデン・ディスク賞を受賞。地球環境問題に強い関心を持ち、主として水辺や歴史的視野からの風景などを撮影し、シンポジウム、テレビジョンにも積極的に参加、時代に新しい風を送っている。

大学祭のパンフレットの表紙をつくる役割がまわってきたのだ。ぼくはすぐにそれを写真で飾ろうと思った。いまでも、それが何故、写真だったか解らない。そして、それを自分で撮影しようと思った。ぼくは上等なカメラを持っていなかった。その頃は熱中する映画青年だったから頭の中のカメラはカメラだった。そんな感覚の中にいたのだったから、パンフレットのためのシチュエーションを考えて、友だちから借りた高級カメラのシャッターを押した。技術的なことはまるで知らなかったから、すべて友人に手伝ってもらった。自分でシチュエーションをつくり、写真を撮ったのは、それが生まれてはじめてのことだった。「何だか面白いじゃないか」と、ぼく

は思った。「写真を撮ることは、ぼくに向いているのじゃないか」とも考えた。けれども、写真のことは何も知らなかった。いまだから解るのだが、子供の頃、映画をストーリーではなく、シーンで観ていたことが、どうやら、ぼくを写真に向かわせたらしい。思えば人生も世界もシーンの積み重ねでできている。シーンから見えるもの、その背後は深遠で、底知れず果てない。シーンから何を読み解くのか、それが写真というものの存在の意味に繋がっている。ぼくが人生や世界から瞬間に抜きとったものが、ぼくの写真だ。「写真家は何を見たのだ」と、天から問われているらしい。



乱舞

川島あつ子（会友）

今冬二月の雪の日でした。時々カメラを片手に散歩する子安浜に行きました。高速道路と国道が走る都市の、その一本裏に入った所を流れる運河に沿った小さな港町です。

猛吹雪で人影もなく、内心出かけて来たことを後悔するほどの荒れ模様。雪が踊り狂い、まるで手織の経糸と緯糸が重なり、からみ合い、身体に巻きついてがんじがらめにされたようで、しばらく立ちつくしていました。すると突然、漁師小屋から出て来た方が「どうしたの、こんな日に！ ストープがあるから」と、小屋の中に招き入れてくれました。やっと身体が暖まり、人情の優しさにふれ、仕事柄、織り上げた時の布のぬくもりに似た、やわらかな温かさを感じ、心までなごむ思いでした。掲載作品は、その日に撮った一枚です。

この日に経験したことは、今まで写真を通じてきたことに感謝し、また、心の中に思い出のページとしてファイルされました。

（右ページ）

田植の頃

松岡 寛（会員）

松阪市飯南町深野の棚田は、平成11年に農林水産省の「日本の棚田百選」に選ばれました。この「だんだん田」は、標高820メートルの白猪山南麓に位置した、急斜面に開けた石の芸術です。室町時代から北畠氏の重要な拠点でした。

白猪山の西に「のろし場」があり、見張りに詰めている侍たちの食糧確保のために、棚田が開墾されたと伝えられています。120段の石垣があり、積み上げられた石の数は約301万個。谷川の水を引いた約500枚の棚田があります。もともと深野地区は耕地に恵まれず、古くから木地・蚕・和紙などで生計を立てていて、この棚田は特に貴重でした。

田植えシーズンには「ヨイショ」の掛け声が、どこからともなく聞こえてきます。今も昔なつかしい手植えで、この地方ならではの光景です。

稲が金色に実り、収穫が終わると「深野棚田まつり」が行われます。日が暮れるころ、無数の竹灯籠が棚田を浮かび上げ、幻想的な光景を演出します。



母子

北野末吉（会員）

ここは長崎県で唯一の佐世保市石岳動物園です。自宅から車で15分ほどの近さで、度々撮影に通っています。

飼育係りの方から近々に縞馬の子供が生まれるとの情報を得たその翌日、運良く生まれたばかりの、まだ臍の尾が付いたままの可愛い縞馬の赤ちゃんに出会えました。

その後、訪れる度に大きくなっていて屋外で元気に飛び回っていました。やがて遊び疲れたのか、馬小屋に入ると愛情豊かな母親に子が寄り添い、何とも微笑ましい姿を見せてくれました。

人も動物も子供は可愛いものです。生まれた命ほど尊いものではありません。愛情をもって飼育され、成長を願うばかりです。

掲載作品は、馬小屋の奥まで光が入らないで、母子だけに光が当たる時間帯を考え、シャッターチャンス待ちつつ撮りました。何回も通って撮った、縞馬母子の愛情豊かな一枚です。

朝陽を浴びて

塚本東明（会友）

生まれ故郷が山形県、朝日連峰の麓。中学生のころから朝日登山をしていて、大学入学後は毎年数回はカメラを持って登山し、必然的に雄大な風景や可憐な高山植物を撮影するようになりました。

初めて一眼レフカメラを購入したのは昭和46年で、ニコマートFTNでした。当時はマクロレンズなどは買えず、花を撮影するのに中間リングやレンズを前後逆に取り付けるアダプターなどを使い、試行錯誤で撮影していました。

仕事の関係で登山する時間がなくなり写真撮影も中止していましたが、二十数年前から自宅でも撮影できる昆虫写真を撮り始めました。最初は黒背景での撮影でしたが、最近は自然の中で、いろいろな昆虫をマクロレンズで撮影し、楽しんでいきます。

掲載作品は、スズメウリの白い葉に止まったベニジミが、背後から朝陽を浴びて翅を広げ、今まさに飛び立とうとしている瞬間です。逆光のため白い紙をレフ板にして撮影しました。



病と医療の知識

健康で明るく人生を楽しむために②

医学博士 吉田鉄也 (会友・兵庫支部)

タバコが原因の肺の生活習慣病

●慢性閉塞性肺疾患(COPD)という病気

生活習慣病でも高血圧や糖尿病、高脂血症などは、一般的によく知られていますが、最近話題になっている肺の生活習慣病に「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」があります。

現在わが国では高齢化が進み、しかも



喫煙率が高いので、この疾患にかかる人が、これからも増えていくものと考えられます。街で酸素ポンプを引いて歩いている人を見かけたことがあると思います。その人たちの多くは、慢性閉塞性肺疾患の病状の進行によるものです。

●COPD疾患の現状

COPDの初期症状は咳や痰、息切れといったごくありふれたもので、本人も気づかないくらいゆっくりと進行しますから、自分では分からないことが多い病気で、その原因のほとんどはタバコです。タバコのニコチンやタールが肺の細胞を破壊します。タバコを吸い続けると加齢とともに呼吸機能の低下が進んで、咳や痰、呼吸困難に悩まされ、やがて呼吸不全や心不全に陥ります。

国内の大規模疫学調査で350万人以上の患者がいることが判明しています。また、40歳以上での有病率は8・5パーセントとたいへん高いこともわかりました。しかし、多くの人は風邪か、タバコ

の吸いすぎなどと思いついては、あまり自分がCOPDとは気づいていません。

診断には肺機能検査を行います。この検査は痛みもなく簡単です。また、手の指から経皮的に血液中の酸素濃度も測ります。

肺機能が低下してきますと、階段や坂道を上がるときに息苦しくなり、同年代の人にもついて行けなくなり、同年代が、この疾患の初期に多い症状です。軽症人でも息切れや痰の量が増え、呼吸状態が悪くなる急性増悪を起こすことがあります。その原因は風邪や気管支炎など呼吸器感染症が引き金になることがあります。その予防のため毎年、インフルエンザワクチンの接種も有効です。

●早期の発見と治療が大事

肺機能はいったん低下すると、再び元に戻すことはできません。COPDは早い段階で発見し治療を受ければ、細胞の破壊の進行を食い止めて、呼吸困難の進行や全身状態の悪化を軽くすることができます。そのためには、40歳以上の喫煙者は毎年、肺機能検査を受けることをおすすめします。

もしCOPDと診断されても、決して悲観しないでください。治療には気道を拡張して呼吸を楽にする飲み薬や吸入薬

朝餉の支度 杉野節子(会友)

ヒマラヤ山脈の南麓、神々の住む神秘的な国「ネパール」。子供たちの目は輝き笑顔も素晴らしい。奥地へ行くと、日本の昔を見るようで、私は大好きです。

昨年十一月上旬にネパール東部、インドとの国境の近くにあるジャナクプルの小さな村の日常生活を撮影しました。

翌日、朝餉の仕度を撮影させてもらうことにしました。早朝、庭の一角にあるカマドで準備が始まりました。女性たちが落葉と薪を入れて火を付け、ナベに油や野菜を入れます。湯気と薪の煙、右上からの光で、その場の情景が良くなりました。軽くストロボを発光させてイメージ通りの撮影ができました。

撮影が終わるころには朝餉の用意が出来、私たち四人を家族一同で接待してくださいました。おらかな人間性に出会い、身も心も温もり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これからも「人間の生きる原点」に接しながら、感動と温もりを撮り続けたいと思う毎日です。

があります。進行した場合は、在宅酸素療法もあります。その前に進行を止めることが大切です。

●まずは禁煙する

進行を止めるには、まずは禁煙することです。禁煙するとおよそ2年で肺機能の低下が止まり、非喫煙者と同等に活動できることが知られています。このほどの公的機関や人の出入りが多いホテルや飲食店などでの禁煙が法律で定められました。これもCOPD予防のためです。

禁煙できるかどうか、治療の効果を左右します。何年か先も健康で明るい生活を楽しみ、作品づくりにいそしむことができるか、それともベッドの上で不自由な生活を送るようになるか、それは禁煙に対するあなたの努力次第です。

もうひとつ大切なことは、肺炎予防です。わが国の死亡原因の第3位は肺炎です。新聞の死亡欄でもよく見かける疾患で、65歳以上の高齢者が肺炎にかかる死亡率は90パーセント以上です。慢性閉塞性肺疾患のある人がかかると、さらに致命的です。この肺炎予防には、幸い肺炎球菌ワクチンがあります。このワクチンは1回の注射で5年間有効です。

COPDの方だけでなく、高齢者は肺炎予防のため、ぜひ接種してください。



REAL 賞「戯れる」岩田文男(愛知支部員)



REAL 賞「海辺の二人」石丸なつ子(鳥取支部員)



REAL 賞「怖いよ～」今澄鈴子(神奈川支部員)



REAL 賞「昼下りの街角」大和啓子(兵庫支部員)



REAL 賞「早春」門間栄子(秋田支部員)



REAL 賞「祭りの娘」浅井敬三(兵庫支部員)



REAL賞「雪のプラットフォーム」夏目幹也(兵庫支部員)



REAL 賞「ふれあい」添石幸安(沖縄支部員)



二科賞「寸輝」山出一成(広島県)



全国知事会賞「狐景」渡辺和幸(福岡県)



日本カメラ財団賞「家族」渡辺美沙(山口県)

第62回二科会写真部展 公募部門入賞作品一覧

二科賞「寸輝」山出一成(広島県)
全国知事会賞「狐景」渡辺和幸(福岡県)
日本カメラ財団賞「家族」渡辺美沙(山口県)

【単写真部門】

シグマ賞「雨の風景」西岡千春(滋賀県)
ラボネットワーク賞「黒衣の女」筧 清美(兵庫県)
トキナー賞「祝いめでた」八田公子(福岡県)
タムロン賞「少年」中西武臣(兵庫県)
キャノン賞「最後の夏」永峰康則(香川県)
オリンパスイメージング賞「オーロラ爆発」稲水 惇(広島県)
ニコン賞「青春」石橋美弥子(広島県)
ケイジェイイメージング賞「ハプニング」脇坂勝弘(東京都)
フェーズワン賞「好奇心」深谷邦雄(愛知県)
加賀ハイテック賞「バレリーナ」金谷克造(三重県)
富士フィルム賞「庇護のもとに」渋谷俊隆(香川県)
イーストウエスト賞「キュート！」笠原智恵子(北海道)
エイエムエス賞「コラボレーション」平山幸子(福岡県)
エターナルラボ賞「桜ロード」高橋純寿(広島県)
カラーサイエンスラボ賞「激突」松下紀和(兵庫県)
写真弘社賞「タックル」江田光信(山口県)
トミカラー賞「視線」赤平 薫(秋田県)
フレームマン賞「冬暄」堀内正雄(広島県)
プロラボ ホワイトアース賞「大笑い」吹抜洋美(広島県)
堀内カラー賞「シャワー大好き」栗林 誠(愛知県)
よしみカメラ賞「綿帽子」前原益雄(鹿児島県)
セコニック賞「雨の日の巡礼」新田洋子(広島県)
フォトコン賞「追いかけて」中畑小夜子(香川県)
アサヒカメラ賞「母子」那須裕一朗(福岡県)
日本カメラ賞「夕映」藤原静男(山梨県)
奨励賞「転倒」高見澤 忠(長野県)
奨励賞「七久里神社はだか祭り」中山 弘(長野県)
奨励賞「お山の大将」小沢和也(山口県)
奨励賞「空の祭典」原田ヒフミ(熊本県)

【組写真部門】

エプソン賞「暮れる頃」小林一夫(茨城県)
ラボネットワーク賞「砂塵」中川栄子(東京都)
リコーイメージング賞「ステーション」樋口哲司(三重県)
写真弘社賞「漁村風情」山本孝之(鳥取県)
ピクトリコ賞「岩礁」相原利雄(愛媛県)
クリエイイト賞「祭りの町角」内田玲子(兵庫県)
フレームマン賞「迷彩」山本璋子(滋賀県)
堀内カラー賞「祭り日」藤井雅子(兵庫県)
フォトコン賞「バレエスクール」中野敏生(三重県)
アサヒカメラ賞「祭り日」足立順子(京都府)
日本カメラ賞「朝稽古」白石志津子(東京都)
奨励賞「挽歌」寺尾和子(栃木県)
奨励賞「春の詩」松浦弘子(静岡県)
奨励賞「雪だるまの里」北中和子(石川県)
奨励賞「春一番」木村正司(滋賀県)

第62回展の公募部門を語る

対 談 森井禎紹会員 蜂須賀秀紀会員

応募作品への期待

森井…今年の公募部門は、応募点数が昨年よりは減少しました。減少した原因はいろいろあると思いますが、ひとつは何回か応募してなかなか入選しないと応募をやめてしまう。入選は一人1点ですから、今年の入選率は約30パーセントで、考え方によってはけっこう厳しい。
蜂須賀…確かに何年か続けて応募した結果、一度も入選通知が貰えないと応募しなくなりですね。ただ、なかなか入選まで行かない人は、なぜ入選できないのかを考えてほしい。

森井…一次審査で感じたことは、ちよつと作品の狙いが甘くなってきた。それは作品に新鮮味がない、被写体がマンネリ化しているんですね。というのは過去の入賞作品や入選作品の類似がけっこう多い。入選したい一心から可能性を求めて、そうした作品づくりに走ってしまった。心境はわかりますが、その行為は逆効果で、新鮮味に欠ける写真になるからますます入選がむずかしくなってしまう。
蜂須賀…組写真に、特にそういった傾向

がありますね。

森井…組写真の場合、3枚の写真を組んで見せるのがむずかしいんでしょうね。3枚のうち2枚はいいのだけでも1枚がもう一つもの足りないのが残念ですね。
蜂須賀…二科会写真部展も旧態依然ではないし、何か新しい刺激の発信が求められていることは痛感しています。そういった点でも、審査員の目を覚ますようなインパクトのある斬新な作品を多く期待したいですね。

年々増える画像処理作品

森井…最近、デジタル写真が多くなっていて、合成写真とか、画像処理した写真には、審査でも苦労しています。一次審査は四ツ切サイズだし、いちいち作品に近づいてチェックできないですね。ですからデジタル処理に気付かず評価してしまふ場合もある。最近画像処理もかなりレベルが上がってきて、不自然さを感じさせない作品づくりができています。
蜂須賀…二科会写真部展では画像処理がだめということではなく、合成写真も認め

ているわけですが、ストレートと違って見ていた写真がじつは合成写真だった場合にどうするか、審査員によって判断が分かりますね。作品としての価値をどう評価するか。これまでの写真の概念からすると迷いますよね。

森井…フィルムでも合成写真はあったけど、デジタルの場合は完成度のレベルがまったく別物ですね。
蜂須賀…時代の流れで、画像処理や加工は自由だと思ふ。むしろ審査する側がちゃんと評価基準をつくって審査することが必要だし、審査員にも写真を見抜く感覚というか、判断力が求められる。作品的価値をどう評価するか、審査員が試される時代になってきたと言えますね。
森井…今後は審査方法を検討することも考える必要がありますね。

【上位入賞作品講評】

●二科賞「寸輝」山出一成(広島)
蜂須賀…海外でのスナップ風景ですね。近代的な都会風景で、林立する高層ビルに太陽の光が当たって輝いている。そんな光景をバックに自転車に乗った人がシルエットで通り過ぎて行く。そこが風景写真でもあり、スナップでもあるわけです。画面構成が洗練されていてモダンだし、都会の空気感もありますね。写真にスケールがあります。
森井…審査員の中に、画像処理でつくった写真ではないかという意見もあった。

けれども不自然さがひとつもない。自転車に乗った子供も効果的だし、道路の水溜まりに映っている光景もリアリティーがありますね。何か不思議な感じがする写真で、あるいは作者がイメージした幻想世界なのかもしれない。魅力のある作品に仕上がっていると思います。

●全国知事会賞「狐景」渡辺和幸(福岡)
森井…藤の花に滝の写真で、この場所はこれまで何回も出てきました。それでも惹きつけられるものがあるんですね。特に画面全体の色調が、独特の雰囲気を出しています。そして1羽の鳥が、作者のイメージを強調しています。
蜂須賀…いずれにしても画像処理によってつくりこまれているのは間違いないと思います。けれど写真に違和感がないですね。完成された作品になっている。デジタル処理されていても、最終的によい写真になっていればよいという考え方も評価できる写真だと思います。

●日本カメラ財団賞「家族」渡辺美沙(山口)
森井…今年初めて創設された賞です。この写真はモノクロの表現性がいかされた写真ですね。当然、演出された構成だと思ひますが、家族というテーマが物語的に表現されていて素晴らしいと思います。
蜂須賀…光と影によるシンプルな描写がかえって内容をドラマチックにしていますね。モノクロ写真で余計な要素を全て排除して、被写体のフォトジェニックな部分だけを強調して見せている。作者の力量を感じます。

●第62回二科会写真部 展に多数が来場

第99回二科展(=第62回二科会写真部展)は、9月3日(水)から15日(月)までの12日間(9月9日(休館)、東京・六本木の国立新美術館で開催。
写真部展会場には、特別会員・会員・会友作品および一般公募の入賞・入選作品の総1409作品を展示しました。
会場には連日多数の来場者があり、作品一点一点を熱心に鑑賞されていました。会期中の入場者数は延べ約9万5千名でした。第99回二科展は、好評裡に終了することができました。

【ギャラリートーク】

写真部展会場では、今年も写真部会員によるギャラリートークを行いました。9月6日(土)午後は徳永善彦会員と川本



第62回二科会写真部展の展示会場

征紀会員が担当し、翌9月7日(日)午前には柳原香会員と丹羽正仁会員が担当しました。

公募部門の入賞作品を中心に作品解説を行い、解説者の周囲には多数の人が集まり、熱心に聞き入っていました。

●第62回二科会写真部 展授賞式を盛大に開催

第62回二科会写真部展の授賞式を9月5日(金)に東京プリンスホテルにて開催。当日は好天に恵まれ、来賓をはじめ特別会員・会員・会友、そして全国から入賞・入選者など830名が出席され、盛大な授賞式となりました。

授賞式は午後2時30分から始まり、当日、体調の関係で欠席の大竹省二理事長に代わり森井禎紹常任理事が開会の挨拶を行いました。つづいてご出席いただいた来賓66名を紹介。来賓祝辞を公益社団



第62回展「二科賞」受賞の山出一成さん(右)

法人二科会理事長・田中良様、一般社団法人二科会デザイン部理事長・今村昭秀様、株式会社ニコイイメージングジャパン・小泉洋一様から賜りました。

表彰は、二科賞、全国知事会賞、日本カメラ財団賞の授賞から始まり、つづいて「単写真部門」協賛会社賞25賞と奨励賞4賞を授賞、「組写真部門」協賛会社賞11賞と奨励賞4賞を授賞しました。

第62回展入選作品の表彰は、「単写真部門」入選者を代表して興村良輔さんが受賞、「組写真部門」入選者を代表して岡部裕子さんが受賞しました。表彰後、二科賞の山出一成さん、全国知事会賞の渡辺和幸さん、日本カメラ財団賞の渡辺美沙さんが受賞の挨拶をされました。授賞式は滞りなく進行し、午後3時50分に閉会しました。

●第62回展の懇親会を 賑やかに開催

授賞式から会場を移して午後4時から懇親会が始まり、開会挨拶を鈴木洋一会員が行いました。つづいてオリンパスイメージング株式会社・隠岐浩史様のご発声で乾杯。例年どおり会場には賑やかな会話が飛び交い、恒例の初入選者の紹介にも多数が登場して、全国から参集した方々の交流の場となりました。

坂部子一会員より中締め挨拶があり懇親会は定刻に閉会しました。

〈事務局局長・片岡順一会員・記〉

■支部展情報

NEWS FILE

- 2014新潟支部公募展
会期:10月8日(水)～13日(月)
会場:りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館4階
- 会期:10月15日(水)～19日(日)
会場:長岡市美術センター
- 第2回岡山支部展
会期:10月14日(火)～19日(日)
会場:岡山県天神山文化プラザ第2展示室
- 第36回広島支部公募展
会期:10月14日(火)～19日(日)
会場:広島県立美術館県民ギャラリー
- 会期:11月26日(水)～30日(日)
会場:ふくやま美術館ホール
- 鳥取支部写真展
会期:10月17日(金)～22日(水)
会場:中電ふれあいホール3階ギャラリー
- 第34回千葉支部展
会期:10月28日(火)～11月2日(日)
会場:千葉市美術館9階市民ギャラリー
- 第20回長野支部公募展
会期:11月11日(火)～16日(日)
会場:八十二別館ギャラリー82
- 会期:11月19日(水)～24日(月)
会場:茅野市民館市民ギャラリー
- 第34回九州・沖縄地区公募展/支部員展
会期:11月11日(火)～16日(日)
会場:佐賀県立博物館
- 第38回愛知支部公募展
会期:11月19日(水)～24日(月)
会場:愛知県美術館ギャラリーJ室
- 第22回岐阜支部展
会期:11月26日(水)～30日(日)

- 会場:岐阜県美術館
- 第38回東北地区公募展
会期:11月28日(金)～12月2日(火)
会場:せんだいメディアテーク5階ギャラリー
- 第38回福島支部展
会期:12月14日(日)～17日(水)
会場:福島テルサ4階ギャラリー
- 第37回富山支部公募展
会期:1月10日(土)～13日(火)
会場:富山市民プラザ
- 第51回山口支部公募展
会期:1月23日(金)～25日(日)
会場:和木美術館アート・ウィング)
- 会期:1月30日(金)～2月1日(日)
会場:光市文化センター
- 会期:2月6日(金)～8日(日)
会場:宇部市文化会館
- 会期:2月13日(金)～15日(日)
会場:山口市小郡文化資料館
- 宮崎支部展
会期:1月26日(月)～2月1日(日)
会場:宮日会館2階ギャラリー

■支部公募展作品募集

- 第37回富山支部公募展
◇応募資格:富山県在住・在勤・出身者
◇テーマ:自由、未発表に限る
◇サイズ:四ツ切、デジタルはA4サイズ可
◇応募受付:11月1日(土)～15日(土)必着
◇応募料:5点まで4千円、5点以上1点につき5百円、支部員は5点まで3千円
◇応募方法問合せ先:稲澤一彦富山支部長
☎0765・56・8482
- ◇賞:富山支部大賞、富山県知事賞、富山県議会議長賞、富山市長賞ほか
- 第38回愛知支部公募展
◇応募資格:愛知支部員・一般

- ◇テーマ:自由(単写真1点とする)、未発表に限る
- ◇サイズ:全紙、パネルマット貼り、600×600×25ミリ(厚さ)
- ◇作品搬入:11月18日(火)13時 愛知県美術館ギャラリーJ室
- ◇出品料:2千円(支部員は年会費6千円、一般出品者は展示協力費6千円を同時に納入)
- ◇応募方法問合せ先:平出勝也愛知支部長
☎0532・52・5680
- ◇賞:愛知支部大賞、愛知県知事賞、名古屋市長賞ほか
- 第42回静岡支部公募展
◇応募資格:静岡県在住者(県外可)
- ◇テーマ:自由(単写真、未発表に限る)
- ◇サイズ:四ツ切または四ツ切
- ◇応募受付:1月1日(木)～31日(土)
- ◇応募料:単・組を問わず1点1千円
- ◇応募方法問合せ先:薩川高宏静岡支部長
☎054・346・0705
- ◇賞:静岡支部大賞、静岡県知事賞、静岡新聞社賞ほか
- 2015(第47回)神奈川支部公募展
◇応募資格:神奈川県在住・在勤・神奈川県の写真クラブ所属者・現支部員
- ◇テーマ:自由(単写真、未発表に限る)
- ◇サイズ:四ツ切、デジタルはA4サイズ可
- ◇応募受付:1月20日(火)～31日(土)必着
- ◇応募料:1点2千円
- ◇応募方法問合せ先:榎原俊寿神奈川支部長
☎0465・62・8301
- ◇賞:神奈川支部二科大賞、神奈川県知事賞、横浜市長賞ほか

■特別会員・会員・会友・支部員情報

- 藤井雅子写真展「海女」
兵庫支部・藤井雅子支部員の個展。

一般社団法人二科会写真部東北地区 遠野市 民俗芸能撮影会

昔ながらの山里を再現した「遠野ふるさと村」で、茅葺屋根の曲り家、鹿踊りや神楽の舞いなどを撮影。

- 日時:2015年1月17日(土) 9時30分～15時30分
- 会場:遠野ふるさと村(遠野市附馬牛町上附馬牛5の89の1)
- 参加料:7000円(入場料・昼食代含む) 郵便振替で振込み
- 参加申込締切:11月末日(申込順・予定参加者150名)
- 撮影指導:森井禎紹会員、蜂須賀秀紀会員
- 主催:青森支部・秋田支部・岩手支部・福島支部・宮城支部・山形支部
- 問合せ:櫻井孝一会員(宮城支部)
☎090・4318・6309



- 会期:9月29日(月)～10月25日(土)
会場:ふるもと珈琲店ふるもとギャラリー
- 駒形隆夫・村上則子写真展「お茶と静岡の残したい情景と子供達の笑顔」
静岡支部・駒形隆夫会員と村上則子会員の二人展。
会期:10月1日(水)～12月1日(月)
会場:お茶の郷博物館2階特別展示室
- 須賀一写真展「谷中寺町、猫の町」
東京支部・須賀一会員の個展。
会期:10月2日(木)～15日(水)
会場:オリンパスプラザ東京
- 吉成正一写真集『阿波の人II』
徳島支部・吉成正一特別会員の作品集。
サイズ:355×270ミリ・モノクロ・カラー・定価15000円(税込)
- 吉成正一 ☎088・652・3323
- 菊川靖水写真集『虫と遊ぶうでジカメもつてトンボもチョウもバタもハチもみんな友だち』
鹿児島支部・菊川浩行会員の作品集。
サイズ:200×225ミリ・カラー・定価10800円(税込)
- 星雲社 ☎3947・1021
- 内藤利夫写真集『愛しい動物たち』
愛知支部・内藤利夫会員の作品集。
サイズ:210×257ミリ・カラー
内藤利夫 ☎0568・31・6055
- 山本衛写真集『旅ある日ある時』
岡山支部・山本衛会員の作品集。
サイズ:245×253ミリの3冊組・カラー
山本衛 ☎086・223・1737
- 大野三郎写真集『動物たちに魅せられて』
静岡支部・大野三郎支部員の作品集。
サイズ:250×250ミリ・モノクロ
大野三郎 ☎080・5114・9529

INFORMATION



■2014年度夏期定時会員会友総会を開催

夏期定時会員会友総会を特別会員・会員・会友の373名が出席して、9月5日(金)に東京プリンスホテルにて開催しました。

蜂須賀秀紀常任理事の開会挨拶のあと、会員・会友各賞の表彰を行いました。「大竹省二賞」1名、「会員努力賞」6名、「会友努力賞」18名を表彰。続いて本年度の会員推挙者24名に「会員推挙認定書」と「会員バッジ」を授与、会友推挙者48名に「会友推挙認定書」と「会友バッジ」を授与しました。

●第62回展 会員・会友受賞者

<創立会員賞> (特別会員・会員対象)

「大竹省二賞」樋口幸雄(三重)

<会員努力賞> (特別会員・会員対象)

楠元正輝(宮崎)、堀田俊秀(山口)、河上守也(富山)、矢田新男(三重)、山口 博(福岡)、南村初江(滋賀)

<会友努力賞> (会友対象)

小林千鶴(埼玉)、矢島富佐恵(東京)、小林茂雄(島根)、中島美穂子(熊本)、藤井壽雄(山口)、安野文子(香川)、安部可弘(大分)、望月邦子(静岡)、中島丈夫(長野)、占部俊和(東京)、光岡茂之(富山)、鬼界榮次(京都)、秋田陽康(広島)、横山幸代(高知)、吉江和幸(北海道)、山本 茂(群馬)、大浦美保(和歌山)、大平幸恵(広島)

●2014年度会員推挙者/24名

(2014年9月5日付)

永井義久(愛知)、松原勝次(和歌山)、鳥越修(広島)、関口晴子(秋田)、会津正治(長野)、安藤宏幸(愛知)、内藤利夫(愛知)、辻 堅一郎(岐阜)、竹本勝治(広島)、西原富久(広島)、酒井勝義(長崎)、上田 保(広島)、石原光男(山梨)、伊藤京平(静岡)、山本 衛(岡山)、大倉啓孝(広島)、小西敏治(広島)、永澤悦穂(高知)、中込弥男(東京)、小林千鶴(埼玉)、松永節夫(愛知)、吉田昌雄(富山)、穂丸初日(福岡)、篠原 操(福岡)

●2014年度会友推挙者/48名

(2014年9月5日付)

三浦敏雄(青森)、杉本昭一(秋田)、小寺礼子

■表紙のことば

「湖畔の朝」大竹省二 創立会員

箱根・芦ノ湖の朝はすがすがしい。静寂につつまれた湖面を朝日がかすかにピンクに染めていた。女は、湖畔の岩に座って大胆に片足を伸ばして湖水に足先をつけ、その水の冷たさに思わず声を上げた。

女の情感が、芦ノ湖の情景に徐々に溶け込んで行くのを感じた。

(福島)、清野真紀子(福島)、石井欣子(東京)、伊藤 陽(東京)、大原 京(神奈川)、後藤忠彦(埼玉)、福井憲男(埼玉)、山本利三郎(群馬)、和地武夫(栃木)、荒川充洋(茨城)、小堀陽三(茨城)、藤原静男(山梨)、松浦弘子(静岡)、山田進三郎(静岡)、佐藤弘志(愛知)、岡田良一(愛知)、岡本武志(愛知)、宮田典彦(愛知)、早瀬信一(岐阜)、堀 雅征(三重)、渡邊富嘉(三重)、吉田淑子(石川)、竹内正男(京都)、木村正司(滋賀)、蓬萊玲子(兵庫)、伊賀美代子(大阪)、阿部禎男(鳥取)、倉本喜義(広島)、新田洋子(広島)、堀 司郎(広島)、小西由紀子(広島)、板垣まり子(山口)、増田 寿(徳島)、梅本貞範(徳島)、富岡佳代子(徳島)、津野廣幸(高知)、福島 勲(愛媛)、相原利雄(愛媛)、山田尉雄(熊本)、甲斐原英雄(長崎)、吉塚雄二(福岡)、松波きよみ(東京)、澤田芳夫(神奈川)、樋口哲司(三重)、吹抜洋美(広島)、網永保人(山口)

■『第62回展二科会写真部作品集』

2014年度「第62回二科会写真部展」に展示した総1,409作品をオールカラーで収載した貴重な作品集。巻末に入賞者受賞感想、第1回展から第62回展までの入賞者・会員会友推挙者一覧、創立会員・特別会員・会員・会友・入賞者・入選者の作品目録などを掲載。

並製本・サイズA4判変形(297×225ミリ)・カラー388ページ・本文52ページ。

頒布価格15,000円。特別会員・会員・会友・支部員・第62回展入賞者および入選者は特別価格13,000円。支部員以外の第62回展応募者は14,000円(いずれも送料実費)。

※購入希望者は、所定の申込書を事務局にご請求ください。



『第62回展二科会写真部作品集』

■第99回二科展(=第62回写真部展) 地方巡回展スケジュール

○富山展:2014年9月20日(土)~28日(日)
富山市民プラザ

○名古屋展:2014年10月7日(火)~19日(日)
愛知県美術館ギャラリー

○大阪展:2014年10月29日(水)~11月9日(日)
大阪市立美術館

○京都展:2014年11月27日(木)~12月7日(日)
京都市美術館

○広島展:2015年1月6日(火)~11日(日)
広島県立美術館県民ギャラリー

○福岡展:2015年2月17日(火)~22日(日)
福岡市美術館

○鹿児島展:2015年3月4日(水)~15日(日)
鹿児島県歴史資料センター黎明館

※会場によって展示スペースが異なるため、全ての作品が展示されない場合があります。

■特別会員・会員・会友情報

辻川弘会友(大阪)2014年2月24日逝去

原田政章特別会員(愛媛)2014年3月6日逝去

宮崎圭介会員(長崎)2014年6月23日逝去

田邊幸雄会員(栃木)2014年7月22日逝去

村野隆治会友(埼玉)2014年9月17日逝去

高間新治特別会員(愛知)2014年9月25日逝去

櫻井伸雄会友(千葉)2014年9月30日自主退会

■「支部員バッジ」を頒布します

二科会写真部では、会員・会友および支部員

それぞれにバッジを発行。支部員バッジが必要な場合は支部長を通して本部事務局へお申し込みください。

●頒布価格=1個2,000円

二科会写真部広報誌「REAL」Vol.23

2014年10月15日発行

発行所/一般社団法人二科会写真部

発行人/大竹省二

編集/一般社団法人二科会写真部

〒106-0031 東京都港区西麻布1-4-20

ワルトハイム西麻布601

TEL. 03-3470-8033 FAX. 03-3470-8034

http://www.nika-shashin.or.jp